別紙様式（府中市立国府）小学校・学園

平成３１年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果をふまえた指導改善策

Ⅰ　調査の概要

１．調査の目的

〇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

〇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

〇上記のような取組みを通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査の対象

小学校第６学年・義務教育学校第６学年の児童

３．調査の内容

（１）教科に関する調査（国語、算数）

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

・児童に対する調査

・学校に対する調査

４．調査日時

平成３１年４月１８日（木）

Ⅱ　学力調査の結果【小学校・義務教育学校前期課程】

１．　教科に関する調査結果（平均正答率※）

	国語Ａ	算数
全　国	６３．８	６６．６
広島県	６６	６８
府中市	７１	６９
（　学校名　）	８１	７２

※平均正答率とは、「児童の正答数の平均」÷「設問数」の値を、％で表わしたものです。

２．調査結果にみられる特徴と課題及び今後の改善策

【国語】特徴と課題
◇【設問２（一)】９２．７％（県７８．８％、全国７５．９％）県平均比　＋１３．９％ ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。 ◇【設問３（三)】９２．７％（県７２．４％、全国６８．２％）県平均比　＋２０．３％ ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができる。 ◆【設問１（四)】４３．６％（県２８．４％、全国３５．６％）全国平均比　＋８．０％ ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。(かんしんをもってもらいたい)

◇…相当数の生徒ができている点　◆…課題のある点

【国語】改善策
・低学年：漢字の字形と具体的な事物（実物や絵など）とを結び付けるなどの指導を工夫し、漢字に対する興味や関心を高められるようにする。また、漢字単独の読みだけではなく、文や文章の中で漢字を読むことも大切にして、文脈の中での意味と結び付けていくようにする。 ・中学年：漢字辞典の使い方に慣れてきたら、自分で新出漢字の読み方意味などを調べる活動を取り入れる。文や文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、当該学年の前の学年までに学習した漢字を意識して使ったりする習慣を付けるように指導する。 ・高学年：文や文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付けるように指導する。特に、同音異義語の学習指導に当たっては、同じ音からいくつかの熟語を思い浮かべ、それぞれの意味を考えて文脈にふさわしい熟語を選んで書くことができるようにする。 【効果測定】 １２月：自作の類似問題について正答率を＋１０ポイント １２月：単元末テスト８０％以上の児童を７０％、３０％未満の児童を０％ １月：全学年標準学力調査（７５％） ３月：学年末テスト８０％以上の児童を７０％、３０％未満の児童を０％

【算数】特徴と課題
◇【設問２（四)】８０．０％（県６１．３％、全国６０．１％）県平均比　＋１８．７％ ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる。 ◇【設問４（三)】７８．２％（県６５．０％、全国６２．６％）県平均比　＋１３．２％ ・場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断することができる。 ◆【設問１（二)】５４．５％（県６１．７％、全国６０．３％）全国平均比　－７．２％ ・図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することに課題がある。 ◆【設問３（二)】２９．１％（県３２．２％、全国３１．１％）全国平均比　－３．１％ ・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題がある。

【算数】改善策
・全学年において、色板などの具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感性を豊かにすることを大切にする。その際、図形の性質や構成要素に着目して考察することができるようにする。 例えば、第５学年「図形の合同と角」の学習において、本設問を用いて、２枚の合同な台形のうち１枚を、示された４つの図形に当てはめるなどして、図形の中に、２つの合同な台形に分けることができる線を見出すことができるようにする。その上で、見出した線を基に、２つの合同な台形に分けることができることを、図形の性質や構成要素に着目して説明することができるようにする。さらに、２つの合同な台形を組み合わせてできない図形についても、できない理由を、図形の性質や構成要素に着目して説明することができるようにする。 ・全学年において、適用する数の範囲を広げていきながら統合的・発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見出し、表現することができるようにする。 例えば、第４学年「わり算のきまり」の学習において、商が同じになるいくつかの除法の式を基に、除法に関して成り立つ性質を見出す活動が考えられる。その際、児童が除法に関して成り立つ性質を「わられる数とわる数に同じ数をかけても、わられる数とわる数を同じ数で割っても、商は４や５で変わりません。」などと、具体的な数を用いて表現した場合には、「どの数でも当てはまるようにまとめると、どうなりますか。」などと問い返し、児童自らが見出した除法に関して成り立つ性質を一般的に表現しようとする態度を育てることを大切にする。 【効果測定】 １２月：自作の類似問題について正答率を＋１０ポイント １２月：単元末テスト８０％以上の児童を７０％、３０％未満の児童を０％ １月：全学年標準学力調査（７５％） ３月：学年末テスト８０％以上の児童を７０％、３０％未満の児童を０％

Ⅲ　学習状況調査の結果

１．学習状況調査（児童質問紙）の結果にみられる傾向

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも高かった項目
・今、住んでいる地域の行事に参加していますか。（＋２１．３） ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。（＋１７．０） ・算数の勉強は好きですか。（＋１７．１） ・算数の授業の内容はよく分かりますか。（＋１１．１）
肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目
・新聞を読んでいますか。（－３．０） ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか。（－４．２）

２．生活習慣・学習環境などに関する改善のポイント

・全学年でNIE（Newspaper In Education）の実践を継続し、児童の新聞に対する関心をさらに高める。また、NIEに関する職員研修の中で各学年の実践を交流することで、取組のさらなる充実を図

る。
・小中一貫教育、及びコミュニティ・スクールの取組の中で、「人の役に立つ人々の姿」に積極的に注目させ、憧れをもたせる。また、各教科の学習や総合的な学習の時間等において、他の学年や地域方のために活動する場面を設定し、人の役に立つ喜びを感じることができるようにする。